あおい通信 第76号

第76号 平成23年9月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

東京江戸散歩 その三十四 本郷周辺 ⑤

↓追分一里塚跡の酒屋

↓菊坂の説明がある長泉寺前

↑立原道造祈念館
←菊富士ホテル跡地の碑

写真・文 七海邦夫

菊坂…龍泉寺等に転居した後、明治二十七年（一八九四）に西片に転居したのは、一葉が二二才の時である。六畳二間と四畳半で「守喜」という鰻屋の離れであった。場所は現在の興陽社印刷工場の奥の崖際であった。隣合わせの銘酒屋の女をモデルに「にごりえ」を書き、文学に専念した。明治二九年、結核となり二四才の若い命を絶った。

本妙寺跡… 菊坂から本妙寺坂を上ると公認会計士会館がある。ここに明歴の大火（振袖火事）の火元と言われた本妙寺が有った。明暦三年（一六五七）一月一八日ここか出火し、江戸城天守閣を焼き江戸の三分の二を消失させた。死者十万余人という大惨事であった。

本郷菊富士ホテル跡… 本妙寺跡を左に行き、更に左の突き当りにオレガノ商会が有る。ここがかつて高級下宿ホテルとして知られた菊富士ホテルの有った跡である。大正三年（一九一四）、ここの東に有る上野不忍池畔で開催される大正博覧会の客を見込んで、同時期に開業した。地上三階地下一階の西洋館ホテルで宇野浩二、正宗白鳥、谷崎潤一郎、三木清、宮本百合子、大杉栄、伊藤野枝、竹下夢二、直木三十五、宇野千代、尾崎士郎、坂口安吾などの文化人や芸術家が長期滞在した。

啄木と赤心館跡…菊富士ホテル跡の隣オレガノ商会二号館に石川啄木の下宿先だった赤心館が有った。明治四一年（一九〇八）、啄木は郷土の先輩金田一京助を頼って上京、四か月間住んだ。ここで「東海の小島の磯の白砂に…」の名句を残している。

現在の本郷五丁目と六丁目の一部はかつて森川宿と呼ばれた。江戸城防備と奥州街道沿いの外様大名監視の為にこの辺に与力森川一族を常駐させたことから「森川宿」と呼ばれるようになった。明治維新後、東大が本郷の前田家上屋敷に移るにつれて、目の前の森川町は、学生、教授などが住む下宿や住宅の街となって発展した。蓋平館や本郷館など下宿が多い事から森川下宿街とも言われた。二葉亭四迷、徳田秋声など文人も多かった。ここは江戸時代、福山藩の中屋敷があり、此処に藩校が建てられた。幕末の嘉永6年（一八五三）、この藩校を「誠之館」と名前を改め、文武教育を厳格に行った。この誠之館は明治になり今の誠之館小学校となった。

追分一里塚…旧中山道と旧岩槻街道が分かれるところで、本郷追分と言った、高崎屋（酒店）の脇に追分一里塚の碑がある。日本橋を起点として一里（約四キロ）にあたり、昔は目印として榎を植えた。その後庚申塔となったが、現在、大円寺内にある。

朱舜水記念碑…東大農学部構内、寛文五年（一六六五）光圀に招かれ古今の儀礼を伝授した中国明末の儒学者、明から清の世になって我が国に帰化した。水戸と江戸を往復しながら光圀に一八年間師事、中屋敷内にて八二才で他界した。記念碑は渡来二五〇年後の明治四五年（一九一二）造。

立原道造記念館…立原は東大工学部建築科に学び、弥生町界隈で青春時代を送った。詩人としても在学中からロマンの香り高い作品を発表していた。卒業時には、別荘の設計で辰野金吾賞を三年連続で受賞した。しかし昭和一四年第一回中原中也賞を受賞しながらも二四才で夭折した。記念館は平成九年の開館で、原稿、絵画、ノート、賞状などの遺品が展示されている。（続く）

世評・時評

花火の黒色火薬には硫黄、炭、そして焔硝（硝酸カリウム）が必要だ。中でも硝石の鉱脈がない日本では焔硝の入手が重要だった。日本人は家屋の床下で、山でとれる植物の葉や人間の尿などを使い、バクテリアの作用で発酵された土から焔硝を造った。山間部の植物、降雪による気温と湿度の調整、広い床下が必要な為、全国的に山間辺地が生産地となった。例えば飛騨高山の合掌造りの家屋は焔硝造りの大工場であったし、東北の南部藩や関東では秩父が焔硝産地として有名だった。秋田の大曲など、地方で大きな花火大会が開かれる場所の多くが産地であった。幕末期安政三年（一八五六）の調査では、年に二十万貫（約八百トン）の焔硝が江戸市中の薬種問屋に運びこまれたという。江戸の夏場の三か月間の「川開き」が制度化し、大量の花火が照明として消費された結果、米作不適の辺地が焔硝産地化して現金収入の道がつき、米が食えて祭りも出来、芝居も見られるようになった。東日本大震災で被害のあった東北地方に、伝統的な祭りや歌舞伎が多く残っている背景には、江戸での花火消費と言う経済的な仕掛けがあったのだ。（なあさん）

食物の幸（シリーズ） キッチン 川俣孝子

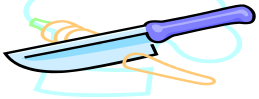
＜人参から一言＞

人参は頻繁に、そして一度に食べる量が多い野菜です。カロテン量はずば抜けて多く緑黄色野菜の王様と云えます。体内でビタミンAに変化する色素で目、皮膚、粘膜を丈夫にし、抵抗力を高め、病気に負けない体を作ります。加熱後もカロテン量が殆ど減らない事も特徴です。体に良い人参をなるべく多く使う様おすすめします。

＜人参と油揚の煎り煮＞

材料（２人分）

人参・・・100g　油揚・・・１枚　油・・・大 1/2
調味料・・100ml　醤油・・・小 1/2　砂糖・・小１
唐辛子・・1/2 本



作り方

① 人参は皮をむき千切りにする。
② 油揚は湯通しして千切りにする。
③ 人参を炒め油が回ったら油揚、調味料で煎り付け、唐辛子の小口切を混ぜる。煎りゴマを加えると香りや栄養価も増します。

利用者さんの紹介コーナー

上野　晴也（月、金）
若いスタッフ、マッサージ、給食、送迎、パソコン、書道。縁あって葵に通所している皆様に感謝。小生も若い気持ちで笑顔で減量。

山下　英昭（火）
札幌から東京へ移住して三年。年々体力が衰え、体力を維持するため当所でストレッチ、心のケア等に努めています。今後もご指導とご協力をお願いします。

小林　重隆（木、土）
私は今年より葵に通所。体操、麻雀と好きな事をさせてもらっています。もう少し元気になっての卒業を夢みています。

岩﨑　敷子（月、土）
葵に通所して、とてもしあわせを感じています。リフレッシュ法は、氷川きよしさんのコンサートに行くことです。

小泉　晟（火、土）
電気会社で五十年働きました。二十歳から大好きな車を運転してきました。車はいろいろ乗り換えました。アユ釣りも毎年行っていました。

関川　芳江（火）
去年の十月より通所しています。葵では、皆さんと話をすること、一緒に体操ができることをとても楽しみにしています。

菊地　公助（金）
去年から通所しています。趣味は囲碁、将棋、そして読書です。歴史物が好きです。これからもよろしくお願い致します。

プロ野球選手　失格の弁

横山　稔

日本のプロ野球生みの親、地下に眠る故正力松太郎（富山県高岡市出身）は「俺のやった事業で失敗したものはない」と豪語した。それこそ怪物と呼ばれた情熱の男である。

昭和九年アメリカから招いたベーブルース一行との試合を神宮球場で行なったら「神域を汚した」と暴漢に襲われる時代に、敢然と職業野球の道を開いた力と精神、昭和十一年に職業野球の創設を成功させたこの人は到るところに「斬新なアイディア」「時代を先取りする進取性」「決断と勇気」という言葉が出てくる。

東京巨人軍の創設を決めるといち早く、阪神電鉄に「大阪タイガース」の結成を勧める。二リーグ結成もそうだ。昭和二十四年にプロ球団に参加を希望する会社が増え、受け入れ派と拒絶派が別れたとき、正力の発想はそんなケチな了見を吹きとばした。相競うチーム、相競うリーグあって共にしのぎを尽くした戦いをする。そこにこそ発展がある。スケールの大きな人であった。この豪傑と同じ富山県から昭和三十年、赤バットの川上、青バットの大下、に憧れを抱いていた横山　稔（旧姓・岡田稔）が県人として巨人軍入り第一号として入団した。

砺波高の三番打者であったが、巨人軍では広岡の陰にかくれていたということになる。今になって思い出すと、広岡さんを追い越して正遊撃手などとても望むべくもなかった。

捕手が足りなかったことから、いつの間にかキャッチャーをやるようになり、来る日も来る日も多摩川のゲージの中にしゃがんでいた。その後、腰骨を痛め（脊椎分離症）手術、選手生命は汗とドロに塗れた三年間でした。自主退団し、テレビ局で三十九年間のサラリーマン生活を全うした。

当時の巨人軍丸子寮

夏の日に

石野　澄子

尋常小学校四年から体操の時間が水泳になり、プールのない時代に路面電車で帝塚山から大浜海岸へ。二十分位で砂浜の綺麗な遠浅の海が目前に広がり、皆が歓声を上げ最高の一日でした。

五年生は鳥羽海岸。六年生は天の橋立の臨海学校宿泊授業に参加し、毎年黒坊（くろぼうず）大会で、一位になり、母を驚かせました。

戦後「さくら貝」の歌がラジオから流れ、朝の砂浜でピンクの桜貝、白い巻貝を集め歌い乍泣した日々も有りました。

四年生の夏には林間学校が。高野山の宿坊です。お寺の朝は掃除から始まり、お説教で「一日一善を積むと人生最後の日に阿弥陀様が蓮の台（うてな）を持ってお迎えに来て下さる」と子供の脳裡に、そして今も信じています。正座で痺れが酷く皆泣き笑いの毎日、良い子になり帰校、懐かしい思い出です。

千百余年前、弘法大師が高野山を開山、現在迄も法澄揺ぎない霊場です。

昭和十四年には父の分骨を。緑に包まれた参道を奥の院弘法大師廟、澄篭堂など、母と兄弟で再々訪れました。厳かな参道両側に歴史上有名な武将、政治家の御基が並びます。特に、姫路城主酒井、本田家の御基は、母の祖父母達が登城していた城主。幼い日、母から聞かされた話を思いだし、感慨深いおもいでした。

明治二十三年生まれの母は幼い頃父を亡くしているので、家に伝わる刀や、打掛を売り、小倉の師範学校の学費にし、教員資格を手にしたといって、私達には「恵まれているのだから勉強しなさい」というのが口癖でした。母とは夏に半袖、半ズボンの繋ぎの水着を着て海水浴に行った記憶があります。兄が撮った家族の写真が見付からず、昭和初期の夏のファッションをお見せできないのは残念です。

一番黒いのが石野さんだそうです…

短歌

雪白く
水面に浮かぶ
紅の
散りゆくもみじ
山の影

吉野　波な

あおい俳壇

西瓜食う
種を飛ばせし
大笑い

相田　美代子

ほうたるや
母のみたまか
寄りきたる

富寿郎

葵友の会　広報コーナー

8月度行事の結果

麻雀大会
17日（水）「ベイブ」にて、12名で戦った結果、優勝は七海さんでした。（3回目）

カラオケ会
19日（金）新会場「カラオケボックス・バンバン」にて、　名の出席でした。好評につき今後もこの会場で行います。

9月度行事の予定

歩く会
15日（木）世田谷区立「次太夫堀公園」に行きます。食事は、成城学園で和食です。

カラオケ会
16日（金）「カラオケボックス・バンバン」にて。

役員会
18日（日）葵フロアにて、2時からです。宜しくお願いします。

（事務局長）

◆編集委員会より　お願いです
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。担当飯島迄お申し出ください。